

新年を



一宮市長
中野 正康

あけましておめでとうございます。
昨年を振り返ると、これまでの積み重ね
が実を結び始めたことを感じる年でした。

交通インフラでは、5月に「新濃尾大橋」
が開通しました。岐阜県につながる新たな
ルートの誕生により、周辺道路の交通渋滞
が緩和され、経済の連携や文化の交流がさ
らに進むと期待しています。8月には、新
濃尾大橋近くの富田山公園付近や木曽川河
川敷のサイクリングロードが、国の「かわ
まちづくり計画」に新規登録されました。
今後もますます魅力ある地域になるよう整
備を進めていきます。

そして、名岐道路の高速化として、一宮
木曽川インターチェンジまでの延伸が国の
令和7年度予算で事業化されて、調査や測
量業務が始まりました。さらに、名神高速
道路の新しいインターチェンジを尾張一宮
パーキングエリアに設けることも12月に
事業化が発表されて、市の南部エリアや東
部エリアにおいて、新たなまちづくりの息
吹が強く感じられます。ともに一宮市全域
のさらなる発展の起爆剤となる事業であり、

これまでの国への働きかけが成果となって
表れたことに手応えを感じています。

デジタル分野でも大きく前進しました。
マイナンバーカードを保険証として使う
「マイナ保険証」の利用が進んでいますが、
当市では全国に先駆けて自治体福祉医療の
受給者証（例：子ども医療費の無償化）と
して使える病院や診療所などが200カ所を
超えるまでになりました。

また2月には、デジタルサービスの入り
口で市独自の市民向けポータルサイト「イ
チ・デジ」をリリースしました。市の公式
LINEには防災メニューを追加し、防災に
役立つさまざまな機能に加え、避難所のデ
ジタルチェックインも可能になりました。
さらに健康支援アプリ「kencom」に機
能を追加して、健診結果や薬剤情報を永く
保存（※マイナポータルの5年を超えて）
することが可能となり、生涯にわたる健康
維持に活用できます。

一宮市がもっと「便利なまち、住みよい
まち」となるよう、より良い市民サービスの
提供に引き続き努めてまいります。

迎えて

一宮市議会議長
則竹 安郎



あけましておめでとうございます。
市民の皆さんには、健やかに新年をお迎
えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年の一宮市では、11月に新しい保健
所がオープンしました。2021年に一宮市
が中核市になってから、5年もたたぬうち
に自前の保健所庁舎を整備できたことは非
常に喜ばしいことと思っております。最新
の検査機器などを備えた、市民の健康と衛
生を支える健康危機管理の拠点となる施設
です。食品の安全対策や感染症対策など、
市独自で迅速にさまざまな対応ができるよ
うになると大変期待しております。

その他にも、昨年5月に開通した新濃尾
大橋や、新規事業化が決定した名岐道路の
高速化などの交通インフラの整備が順調に
進んでおり、地域経済の活性化が期待され
ます。また、木曽川流域の富田山公園を中
心とした公園整備や、市民会館のリニュー
アル工事などの施設整備も着実に進んでい
ます。

市議会では、市民の皆さんに議会を身近
に感じてもらい、開かれた議会を目指すため、

昨年度に引き続き12月定例会の閉会日に、
木曽川高校プラスバンド部による議場演奏会
を開催いたしました。演奏後には部員の
皆さんに、主権者教育の一環として議会の
傍聴をしていただきました。少しでも多くの
若者に市議会や市政への関心を持ってもら
えるよう、今後もさまざまな取り組みを
検討してまいります。

本年も市議会としましては、市議会議員
一同、地域の発展を願い、市民の皆さん
が中核市になって良かったと感じていただける
よう、暮らしやすく、震災・災害に強い、
持続可能な社会を目指したまちづくりを市
と協力して進めてまいります。そして、さ
らに開かれた議会を目指し、議事機関とし
ての議会の役割を果たしてまいりますので、
市民の皆さんには、今後とも市議会への一
層のご支援とご協力を賜りますようお願
い申し上げます。

結びに、本年が皆さんにとって幸多き年
となりますよう祈念いたしまして、年頭の
あいさつといたします。